



# 森林ふれあい情報

平成31年1月  
第49号

林野庁中部森林管理局  
木曾森林ふれあい推進センター  
〒397-0001 長野県木曾郡木曾町福島1250-7  
TEL:0264(22)2122 FAX:0264(21)3151  
E-mail:kiso-fureai@maff.go.jp

## 森林ボランティア・NPO連携推進会議

10月26日(金)、27日(土)の2日間、北安曇郡松川村において「森林ボランティア・NPO連携推進会議」をボランティア団体代表による実行委員会が主催、中部森林管理局の後援で開催しました。

中部森林管理局管内で活動する森林ボランティア団体やNPO法人が一堂に会し、互いの交流や市民参加型のワークショップを実施するイベントの開催を通じ、資質の向上と連携強化を図るとともに、一般市民の皆さんに、国民参加の森林づくりへの理解や森林環境教育の重要性をPRすることを目的に開催しているもので、9団体と局署職員併せて36名が参加しました。

1日目の開会式には松川村長及び中信森林管理署長の挨拶、開会式後は参加団体の見識を広げるため、中信森林管理署管内の馬羅尾<sup>ぼらお</sup>国有林で松川村と中信森林管理署が「多様な活動の森における活動に関する協定」を締結している「あがりこサワラの森」まで移動し、中信森林管理署松川森林事務所森林官等から、現地の概要、あがりこサワラの成り立ち等の説明を聞き、実際にあがりこサワラを見て見識を広めました。その後、翌日に開催する「森・ふれあいフェスタ」の会場となる松川村役場に隣接したリンリンパークへ移動し、会場の準備とそれぞれ担当するブース毎に分かれての打合せ等を行い1日目を終了しました。



あがりこサワラを見る参加者



ミニイス作りを楽しむ親子

2日目は前日の夜から雨が降りだし、昼頃からは天候が回復するとの予報に期待をしながらの会場設営でしたが、設営を終了する頃には晴れ間も見え「森・ふれあいフェスタ」の開催となりました。

フェスタではミニイス作りや木工細工など10個のブースを設営し、訪れた一般市民約220名の方に様々な体験を楽しんで頂き、多くの親子連れの方々から「楽しかった」との声が聞かれました。

また、参加されましたボランティア団体の皆さんも、2日間を通して充実した連携・交流の場となりました。

## 木曾の国有林見学会(2018秋季)



稚樹の説明を受ける参加者

10月25日(木)、木曾森林管理署管内の赤沢自然休養林で、木曾川下流域の住民を対象とした「木曾の国有林見学会2018秋季」を開催しました。

この催しは、江戸時代から深い繋がりを持つ木曾地域と木曾川下流域との関係や、森林・林業について理解を深めてもらうことを目的に、木曾川下流域住民の方々に、木曾川源流域の国有林を訪ねてもらい、木曾地域の林業の歩み、木材輸送(伐採地、小谷狩り、森林鉄道)等名古屋市の白鳥貯木場にたどり着くまでの運材技術の変遷や木材の出材地を実際に見聞きし「400年の歴史」を体感、日本の森林・林業の現状に

ついて理解を深めていただくとともに、木曾地域の支援を目的として開催しています。

当日は秋晴れの穏やかな日となり、名古屋市内を中心に参加された56名とスタッフ1名の57名が名古屋事務所隣接の「熱田白鳥の歴史館」を出発、一路木曾路に向いました。赤沢自然休養林到着後、5班に分かれ木曾森林管理署職員1名及び当センター職員4名により現地案内を実施しました。

また、見学会の開催にあたり参加者の中で希望者を対象に、より見学会を有意義なものにしていただくため、名古屋事務所が10月18日(木)に「熱田白鳥の歴史館」において、名古屋市熱田区に貯木場があったこと、木曾地域との関係や赤沢自然休養林の概要などを写真や映像を使い理解を深めるための事前学習会を開催しました。

当日はバスの中で、森林鉄道や木曾ヒノキに関する映像を見ながら赤沢自然休養林に向かうとともに、途中からバスに乗車した当センター所長から赤沢自然休養林までの景勝地等の説明を受けながら、木曾ヒノキの生地へと向かいました。

赤沢自然休養林に到着後は、青空のもと暖かな太陽の日差しが降り注ぐなかで昼食をとり、森林鉄道に乗車し木曾ヒノキの森林・紅葉と溪流が織りなす絶景を眺めながら終点の「丸山渡停車場」へ移動し、班毎に分かれ職員のガイドにより、歴史とともに育まれてきた樹齢三百年余りの木曾ヒノキやサワラが生い茂る林内を散策しながら、木曾の林業の歴史や運材方法、伊勢神宮との関わり、木曾五木の見分け方や特徴などを楽しみながら学びました。

散策後には、参加された方々に来年度以降の見学会の開催について、簡単なアンケートの記入をしていただきました。

参加者からは、ほぼ全員の方から「参加して良かった」「引き続き継続をお願いしたい」との回答が得られたとともに、感想についても「今回のイベントに参加し、国有林への理解がすこし進みました。また、木曾の桧と名古屋との関わりについて知ることもでき、とても良い1日でした」「木曾五木の説明、見分け方で勉強になりました」とも書かれていました。



みそまはじめさい  
御杉始祭の様子を見る参加者

## 森林ボランティア作業支援

### 地球緑化センター

NPO法人「地球緑化センター」では、日本各地での森林を守り育てる活動を推進するため、平成8年に木曾郡上松町赤沢自然休養林で市民参加による森づくりとして「山と緑の協力隊」第1回プログラムが行われ、その後「ふれあいの森（名称：『太樹の森・赤沢』）」を設定してからは、毎年春と秋に森林整備を行っています。

今回、10月20日（土）、21日（日）に行われた「山と緑の協力隊」第217回プログラムでは男性19名、女性5名の参加者が4班に分かれ、樹齢26年生の人工林ヒノキの除伐作業等を行いました。

当センターでは木曾森林管理署と連携を図り、伐倒方法の手順、かかり木処理の方法など安全に作業を行うための指導や道具の貸出を行いました。2日目の作業終了後、平成17年に行われた「第62回御杣始祭」の御神木の伐倒跡地に移動し、御神木の選木条件、三つ紐伐り等の説明を受け無事に終了することができました。



除伐作業を行う参加者

### 城山史跡の森

11月13日（火）城山史跡の森倶楽部による城山国有林において実施された小鳥の巣箱点検作業及びヤマシャクヤク、ササユリ自生地整備作業に当センター職員も協力して実施しました。

当日は天候にも恵まれ暖かな日のなか、作業にあたっては同倶楽部から9名、当センターから職員4名が参加し、2班に分かれ小鳥の巣箱点検とヤマシャクヤク等の自生地整備の作業を行いました。



倶楽部会員による電気柵撤去作業

小鳥の巣箱点検作業は、平成21年度から毎年実施しており、森林に多く棲むシジュウカラなどの小型鳥類を対象に巣箱を設置しています。今回の作業では、昨年度設置した巣箱34個を取り外し、巣箱の営巣や利用した形跡を確認しました。

また、城山史跡の森には長野県指定希少野生動植物であるヤマシャクヤク、ササユリが自生しており、当センターでは城山史跡の森倶楽部と連携しながら貴重な植物の保護等にも取り組んでいます。

ヤマシャクヤク、ササユリ自生地整備作業は、ここ数年前から野生動物による食害が見られたことから、ササユリ自生地では

平成28年度から、また、ヤマシャクヤク自生地では平成29年度から同倶楽部の会員の皆さんとともに、食害防止対策として電気柵の設置をおこなっており、春に設置した電気柵を撤去する作業を行いました。今年も設置から毎月1回の点検を兼ねての見回りをしたところ、電気柵の設置により野生動物による食害は見られませんでした。

## 中日森友隊

中日森友隊は、市民参加の育林作業を通じて、健全な森林環境づくりの手助けを行い、「緑を育て森に親しむ」市民の輪を広げ次世代に伝えることを目的とし、愛知県設楽町に造成した「中日森友隊の森」を中心に活動をしている緑のボランティア団体です。

今回の森林ボランティア作業は、いままで木曾郡王滝村で、昭和59年9月14日に発生した長野県西部地震の災害復旧箇所である「国民の森」で毎年継続して除伐作業を実施していましたが、本年度は7月下旬に発生した豪雨等により、現地に向かう村道等が崩落等により行くことができなくなり、作業場所を同じ王滝村にある「名古屋市民おんたけ休暇村」に変更し、11月4日(日)にヒノキ人工林の間伐作業を、休暇村職員、木曾森林管理署及び当センター職員の作業指導のもと実施しました。

当日は小雨模様の中、参加した15名は3班に分れ、ノコギリを使用して形質不良の植栽木等の伐倒と枝払い及び1.2mでの玉切、その後歩道までの運搬作業を行いました。

特にヒノキの伐倒作業ではほとんどがかり木となるなか、当センター等から貸出したロープ、フェリングレバーやチルホールを使用してかり木処理をするなど安全作業に徹して行いました。参加者の中には作業中に足元が滑り転倒する方もいましたが、全員が怪我もなく無事に作業を終えることができました。

最後に参加された方々からは「楽しく作業ができ、充実した1日でした」との感想が聞かれました。



伐倒したヒノキの枝を払う参加者



玉切伐作業を行う参加者の皆さん



丸太を運搬する参加者